カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

祈祷の使徒　祈りの意向

・教皇
教会の諸活動や諸団体が、宣教の使命を日々新たにし、世の中の求めに応じた奉仕に、そのカリスマを捧げることができるように

・日本
子どもたちが、聖母マリアの心を心とすることができるように

『旅』の終わり150周年

浦上への帰還を記念し、行事開催

今年2023年は、浦上四番崩れによって浦上信徒らが全国22カ所に流配された出来事、『旅』からの帰還150周年にあたる。

1873（明治6）年2月24日に「キリシタン禁制の高札」が撤去され、3月14日「長崎県下異宗徒帰籍」の布令によって、人々は『旅』から帰還することとなった。

この節目の年を記念し、長崎大司教区は「『旅』の終わり150周年記念実行委員会」を立ち上げ、5月から9月にかけて3回にわたり行事を開催することを決めた。テーマは「先祖が流配で示した強い信仰に倣い、そして子孫へ伝えよう」。

予定されている行事は次の通り。同実行委員会は、「先人達の数々の苦難をしのび、彼らの深い信仰に倣い、未来につなげるために心を一つにして祈る」よう、多くの方の参加を呼びかけている。

写真は、浦上教会と中田秀和氏の絵画『旅への門出』を表したレリーフ
＝2018年7月22日「旅の始まり150周年」記念行事の日に撮影＝

『旅』の終わり150周年記念行事

①5月28日（日）
ロザリオ行列と記念ミサ

第1部
12時45分　西坂公園で出発式典
13時15分　浦上教会に向け出発
（小雨決行）

※ロザリオ行列は、実際は11時50分に大波止プラタナス広場から始まるが、人数制限がある。行列が西坂公園に到着後、式典へと移る。

第2部
15時　浦上教会で記念ミサ

②7月23日（日）
高校生による演劇上演
13時30分　浦上教会
『旅』からの帰還「岩永マキ物語」

③9月10日（日）
十字架山殉教祭
14時　十字架山（長崎市辻町）で殉教記念ミサ

長崎大司教区はこの10年余り、いくつかの出来事について150年の節目を迎え、そのたびごとに当時をしのぶ機会を頂いてきた。

2012年6月7日から10日にかけて「日本二十六聖人列聖150周年記念」、15年2月19日には「大浦天主堂献堂150周年」と日本の信徒発見150周年を迎えるにあたっての「教区シノドス提言の公布」、同年3月15日から17日まで「日本の信徒発見150周年記念」、同年12月20日「長崎神学校創立150周年記念ミサ」、17年7月16日「浦上四番崩れ150周年記念祭」、18年7月22日「旅の始まり150周年記念」など。これらの出来事はすべてつながりがあり、今の私たちに続いている。受けた恵みに感謝を忘れず、ともに祈り続けていくことを願う。

「…それは殉教を覚悟した旅でした。信仰を証しするためにいのちをささげるという覚悟をした旅だったのです。彼らは旅の間ずっと祈っていたといいます。（中略）…旅の始まりと旅の途中、また旅先でさまざまな艱難を味わい、病気で死に、あるいは殉教し、棄教や立ち帰りのときでも心がうずいたにちがいありません。しかしこのような受難と死は、日本の教会が実際に復活し再出発するために神が与えてくださったものだといえます。それは1873年の春まで数年間続くことになります」

（2018年7月22日「旅の始まり150周年記念ミサ」での髙見三明大司教の説教）

雲仙殉教祭が5月に開催

2019年以来 4年ぶり

5月21日（日）13時から雲仙メモリアルホールで「雲仙殉教祭」が開催される。長崎大司教区主催、長崎北地区評議会担当によるこの殉教祭はここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いていたが、今年は2019年の実施以来、4年ぶりに公に行われることが決まった。感染対策を取りながら行う。

雲仙殉教祭は1983年、贖いの特別聖年の折、雲仙の殉教者の模範に倣うために集まった約30人の信者によって始められた。翌年からは教区主催として行われ、また開催日も、1627年5月17日に殉教したヨハネ松竹庄三郎ら10人の殉教者をたたえ、5月の第3日曜日に行われるようになった（『カトリック教報』の記事から）。

当日は13時開会、担当教会による発表の後、13時30分から中村倫明大司教の司式によるミサへと続く。ミサ終了後15時頃からは、雲仙地獄の「キリシタン殉教記念碑」まで徒歩巡礼をする予定。

人事異動・任命

（　）内は前任地など

▼4月9日付任命
調停司祭　岩崎康彦師
大水文隆師
子どもと女性の人権相談室責任司祭
葛嶋秀信師

▼教区（(1)は4月1日付　(2)は3月30日付・4月23日着任）
関口　七郎師　聖フランシスコ病院聖堂付、カトリックセンター(1)
村川　昌彦師　鹿子前主任(2)（八幡町主任）
久志利津男師　時津主任(2)（浦上主任、長崎中地区長）

▼コンベンツアル聖フランシスコ修道会（4月1日着任）
中野里晃祐師　聖母の騎士修道院（東京 本部修道院）

アシジのフランシスコ 関口七郎師 長崎教区へ移籍

2014年に東京から長崎に赴任し、2020年からカトリックセンター付となっていたアシジのフランシスコ関口七郎師が、今年2月2日付をもってフランシスコ会から長崎教区へ移籍した。

関口師は1943年8月30日群馬県前橋市生まれ。65年12月25日に神奈川県小田原市の国府津教会で受洗。69年3月20日フランシスコ会に入会。70年3月21日浦和で誓願。76年10月31日前橋教会で、長江恵司教により司祭に叙階された。

叙階後は、前橋教会をはじめ、釧路、沖縄（石垣、普天間、与那原、石川、名護）、長崎、旭川、東京などに赴任し、2014年から再び長崎へ。6年間は本原教会の助任ならびに聖フランシスコ病院付の司祭として任命を受けた。ここ3年間は長崎教区への移籍期間として同病院の専任司祭を務めていた。そして今年4月1日付で、中村倫明大司教から同病院の専任司祭としての派遣書が渡された。

〝出向きましょう〟

日本の信徒発見の聖母記念ミサ

3月17日（金）19時から、大浦天主堂で日本の信徒発見の聖母記念ミサが行われた。中村倫明大司教の主司式、約20人の司祭の共同司式のもと、集まった70人余の人々が共に祈った。

1865年3月17日、浦上のキリシタンたちが大浦天主堂を訪れ、プティジャン神父に信仰を告白した歴史的出来事をさす「信徒発見」。以前は「記念日」だったが、教皇庁の認可を受けて日本の教会固有の「祝日」となり、日本の教会は信徒発見150周年を迎えた2015年から「日本の信徒発見の聖母の祝日」としてこの日を祝うようになった。

中村大司教は説教の中で、「禁教令下、私たちの先輩たちは危険を冒してもこの教会へ出向き、信仰を告白し、過酷な旅にも出向いた」と話し、「信仰宣言が自由にできる今の時代なら、私たちはもっと外に出向いていけるはず」と語った。そして、「出向いていく教会であれ」という教皇フランシスコの言葉にあるように、また、フランシスコ・ザビエルやパリ外国宣教会の神父が日本に長崎に出向いたように、何より神ご自身が私たちのところに出向いてくださったように、信徒発見の聖母の取り次ぎを願い「出向きましょう」と呼びかけた。

教会学校で大浦天主堂について学んだという小学5年生の子どもと参加した大浦教会の男性信徒は、「毎年、できる限りこの記念ミサに来ています。息子と参加できたのは初めてで、一緒に祈ることができ、幸せです」と話していた。

ほしかげ

感染症法上新型コロナ感染症が5類に引き下げられることを受けて、それぞれの教会や施設でも改めて対応が求められている。これまで細心の注意を払いながら念入りに感染症予防に取り組み続けてきただけに、教会は信徒の声に耳を傾けながらどこまで予防策を緩和した環境づくりをすべきか、典礼や教会活動をどこまで再開するかの判断をしなければならない。このような状況だからこそ、教会での検討はもちろんのこと、社会においても弱き立場にある人々への配慮を忘れずに皆が安心して集うことのできる「場づくり」を心がけたい▲幼少期から親に連れられて通っていた教会でも、聖母月の信心の頃になるといつもの聖堂の雰囲気に加えて自然の息吹を感じることができた。新たな命の萌芽が元気を湧き出させ、生命力に満ちあふれている様は、この世の次元を超えた神の超自然のわざを思い起こさせ、人間もその中で生かされていることに改めて気付かされる。マリアへの崇敬と信心は、人間による神への感謝と賛美のとりなしを願うものである。ともに「祈りの場」に身を置き、神から与えられる喜びと恵みを分かち合いたいと祈念する▲私たちの母であるマリアが示した神への信仰と誠実さに思いをはせ、その模範に倣うことを願いながら、この月が私たちの心のうちに「憩いの場」を持つ機会となるように。（熊）

現在、全世界の教会が歩みを共にしている「シノドス」は、❶「教区ステージ 2021年10月～22年8月」と❷「大陸ステージ 22年8月～23年3月」を経て、シノドス総会の❸「第1会期 23年10月」と❹「第2会期 24年10月」を迎える。本紙では今年1月号から3月号にかけて「長崎大司教区のまとめ」（❶に関連）を紹介した。今回、昨年10月24日に教皇庁シノドス事務局が発表した「『あなたの天幕に場所を広く取りなさい』大陸ステージのための作業文書」（全文はカトリック中央協議会ウェブサイトに掲載）について、日本の各教区が行った分かち合いと意見交換の内容をまとめたレポート（❷に関連）を2回に分けて掲載する。このレポートは、今年2月に開催された「アジア大陸別シノドス」に向けて、大陸ステージを主催したアジア司教協議会連盟（FABC）に今年1月に提出された。引き続き、「シノドス」の歩みに心をとめてまいりましょう。

シノドス第16回通常総会に向けて

「大陸ステージのための作業文書」についてのレポート

2023年1月12日　日本カトリック司教協議会

1

はじめに

これは、教皇庁シノドス事務局が2022年10月24日に発表した「『あなたの天幕に場所を広く取りなさい』大陸ステージのための作業文書」（以下、『作業文書』と表記）について、日本の各教区が行った分かち合いと意見交換の内容をまとめたレポートです。

期間は短いものでしたが、多くの教区の代表たちが「作業文書」を読み、祈り、黙想し、分かち合いと意見の交換をしました。新型コロナ感染症の感染拡大を避けるため大がかりな集いはできませんでしたが、ある教区は教区内のシノドス・チームがオンラインでのミーティングを実施しました。また、ある教区では、呼びかけを行って小さな単位でのミーティングを実施しました。また、ある教区では司教と司祭評議会のメンバーによる意見の交換を行いました。

「作業文書」についての取り組みをした人々からは、最初は抽象的な内容が多くて理解が難しかったが、読み進めるうちに共感できる点を多く発見できた、また、世界中の教会が同じような現実に直面していることに気づいたという意見が寄せられました。そして、今回、シノドス（世界代表司教会議）第16回通常総会のための大陸別ステージのための「作業文書」を一信徒にもかかわらず読むことができて、各地の教会とつながっているという連帯感と、安心感を得ることができたという感想もありました。おおむね、この文書は好意をもって多くの人々に受け入れられていると思いますし、自分たちが直面する現実を考えるためのよい材料を提供されたと考えられています。つまり、「作業文書」は読んで批評、批判するためにあるのではなく、祈りを触発し、識別するためには有益なものでした。

このレポートでは「作業文書」106に示されている三つの設問にこだわることなく、日本の各教区から寄せられた分かち合いと意見交換の様子をテーマごとに分類して解説していきます。

1. タイトルについて

「あなたの天幕に場所を広く取りなさい」という『イザヤ書』からの引用によるタイトルは、「作業文書」と向き合う際のよいきっかけとなっています。ある教区ではこのみ言葉についてのレクチオ・ディヴィナ（Lectio Divina）を行いました。そのおかげで、み言葉の時代の背景を深く知ることもできました。今の時代との共通点を見いだすこともできました。いかに多くの人々を天幕へと招き入れるのかが問われていることに気がついた人々もいました。その結果、タイトルから霊感を与えられて（inspire）、グループでの分かち合いと意見交換が豊かになっていきました。このようなみ言葉に導かれた集い、ミーティングの体験は、参加者にいのちの躍動の新しい体験を与えたのです。さらに、デジタルな天幕という新しいイメージを加え、若い人々と共に歩む必要性を語る参加者もいました。これは「作業文書」を一読して、若い世代の人々の意見が反映されていないのではという疑問から生じるものでした。

タイトルのみ言葉に導かれた体験は、信仰の感覚（sensus fidei）を信者であれば誰もが恵みとして戴いているのだという理解へとつながりました。「作業文書」8と9で示されているように、人々の生きたシノダリティの経験を共有することが可能であるという事実に深く気づくことができたのです。その結果、どの教区でも「作業文書」による分かち合いと意見の交換は、たとえそれがオンラインで行われたとしても聖霊に導かれた霊的な体験となりましたし、この世的な集まりではなく、教会の信仰の共同体による体験となったのです。

2. 開かれた教会を目指して

ある人々にとって、この「作業文書」は「開かれた教会」を目指すものであると理解されました。日本のカトリック教会は1980年代から社会に開かれた教会を目指してきました。社会の人々と共に歩む教会を目指してきました。その取り組みの歩みの視点から「作業文書」を読んだ結果です。そして、今、2020年代を迎えて教会はある点で閉ざされたものになっているという反省が生まれました。社会に対して、とりわけ苦しみ、悲しみ、貧困にあえぎ、不当に圧迫され、差別されている人々に対して、教会が開かれた場所になるべきである。さらには、こういった小さな人々にとって教会は安心を与える場所にならなければいけないというビジョン（vision）を分かち合ってくれる人々は数多くいました。

3. 共同責任と共同識別

このような教会こそが、シノダリティを備えた教会であるという理解は、分かち合いと意見交換をした各教区の人々が共通して抱いていたシノドス的教会の理解だと思います。そのためには共同責任と共同識別は欠かせないという意見が寄せられました。一緒に考え、一緒に責任を果たしていく教会共同体のあり方は必要なものです。しかし、実際には、例えば意思伝達の方法などを取り上げても、教区から小教区へ、司祭から信徒へといったように一方通行なものが多すぎるとの指摘がありました。相互に意見を伝えられる、いわばキャッチボールするような循環型（cycle）の組織へと変わる必要があるとの主張もありました。

また、日本の教会は司祭不足という現実に直面しています。しかし、小教区共同体を守り、宣教するのは信徒自身であって、司祭不足は信徒の活性化のチャンスとなるという分かち合いもありました。これからは、司祭は秘跡を行うことだけに専念してほしいという意見もありました。「作業文書」19、58、59から触発されて、聖職者たちが「共に歩む」教会のあり方に無関心であり、積極的に関わろうとはしないという経験に基づく主張がいくつかありました。「任せることと、丸投げすることとは違う」という発言は、シノドス的教会となっていくために司祭たちのあり方を問いかけるものだと考えます。

すでに2021年に発表された「準備文書」では共同責任と共同識別に関する設問がありました。この点について日本の教会では理解の深まりが乏しかったと思います。しかし、この一年間、それぞれの教区や小教区がシノドス的教会へ向けての独自の歩みに取り組んだおかげで、共同責任と共同識別についての必要性と重要性が理解されてきたと思います。

4.「聞く」

共同責任と共同識別を行う教会になるためには「作業文書」11（1）に示されているように「聞く」ことを教会が最優先にしなければなりません。この点については、多くの人たちから意見が寄せられました。「聞く」ことは二つの次元でなされるという主張がありました。一つは教会の外にいる人々の声を「聞く」ことです。複雑化し、閉塞感がある現代の日本社会の中で悲しみや苦しみに直面し、それらに苛まれている人々が少なからずいます。彼らの声に耳を傾け、向かい合う必要があります。もう一つは教会の中にいる人々の声を「聞く」ことです。伝統的に日本社会は男性中心です。しかし、信仰の共同体の中には多くの女性たちがいます。それでも男性の視点で物事が決められてしまいます。女性たちの意見に耳を傾ける必要があるでしょう。このように二つのものを「聞く」態度は、若者や性的少数者、外国人労働者の声を「聞く」ことへとつながります。こうして、教会の中に「多様性の一致」が生まれるのです。

（つづく）

＊全文は中央協議会ウェブサイトに掲載

長崎教区における

新型コロナ感染症への今後の対応について

新型コロナウイルス感染症の影響下、長崎教区はこれまで、長崎県が発令する警報や宣言に合わせさまざまな対応策を取ってきた。この1年は「新型コロナウイルスとともに生きるカトリック長崎大司教区の基本方針」（2022年4月1日付）に沿ってきたが、政府が、今年3月13日以降のマスク着用に関し「個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断が基本となった」旨を発表するなど、対応を緩和する方向で具体的な政策を推し進め始めたことを受け、教区顧問団は教区としての対応を検討し、3月22日付文書で教区内に次のことを知らせた。（教区ホームページに全文掲載）

1. マスク着用について

政府はマスク使用を個人の判断に委ねることを推奨していますが、同時に「マスク着用が効果的な場面」について、次のことを国民に周知しています。

・医療機関の受診をする時
・重症化リスクの高い人が多い医療機関や高齢者施設などへ訪問する時
・通勤ラッシュ時など混雑した電車やバスに乗車する時

長崎教区の小教区では、高齢者が多い教会や医療関係者や介護施設で働く方々が多い教会もあり、それぞれの教会で取り巻く諸事情が異なっています。そこで、これまで通りマスク着用の判断は、主任司祭独自の判断ではなく、役員とよく相談し、それぞれの教会の諸事情を考慮した上で、その対応を慎重に行ってください。その上で、参加者にはご理解とご協力をお願いしてください。

2. 教区の基本方針について

すでに、政府は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けについて、5月8日に今の「2類相当」から「5類」に移行する方針を決定しています。その折に、状況を確認しながら、全面的に「新型コロナウイルスとともに生きるカトリック長崎大司教区の基本方針（2022年4月1日付文書）」を見直すことにいたします。それまでは、現状を継続させていただきます。

〝信仰を深め 次の世代へ〟

宝亀教会献堂125周年記念

平戸地区最古の宝亀教会（主任司祭・川原昭如師）は今年献堂125周年を迎え、3月19日（日）同教会において、中村倫明大司教主司式、地区司祭、歴代主任司祭および出身司祭など11人の共同司式で記念ミサが行われた。ミサには約120人が参列。中村大司教はミサの説教の中で、「125年の歩みの中で、いろんな試練、苦しみがあったでしょう。これからもそうでしょう。それでも、主はともにいてくださる。このことを伝え、私たちを立ち上がらせてくれる、それが教会です」と参列者に語りかけた。

同教会は1898年、九十九島を望む高台に建てられ、多くの信者らが海岸から資材運搬を担うなどの労働奉仕をした。フランス出身で初代主任司祭マトラ師が私財を提供し設計も担当した。正面がれんが造りで側面や背面（本体部分）は木造の複合構造。両側面のベランダ状のアーケードは県内でも例がなく、2003年、県文化財に指定された。

ミサ後は、旧市立宝亀小学校体育館で記念式典祝賀会も行われ、約140人が出席した。ミサと式典を主催した同教会献堂125周年記念事業実行委員長の松田淳二・小教区評議会議長は、「信徒一人一人の思いが染み込んだ立派な教会を守り、信仰を深め、次の世代に引き継がなければならない」とあいさつ。特別事業として司祭館を改築（新築）したことを報告し、永年、教会に対して功績があった9人に感謝状が贈られた。

（宝亀教会）

2023年度 定例司教総会

2月13～16日、東京・日本カトリック会館で2023年度定例司教総会が開かれ、司教、教区管理者、関係者らが出席した。

主な報告事項▼「2023年度司祭生涯養成プログラム」が今年1月に実施、22人の司祭と5人の司教が参加した▼学校教育委員会（委員長＝前田万葉枢機卿）は、毎年「校長・理事長・総長管区長の集い」を開いているが、信徒でない校長・理事長が増えていることを踏まえ、学校が教会とのつながりをより意識できるよう、集いの名称に「司教」を加える。またカトリック学校の現場が抱える問題を把握するため、「カトリック学校実態調査」をアンケートの形で実施することを報告した▼「ラウダート・シ」デスク（責任司教＝成井大介司教）は、昨年7月に設置されてからの活動を報告。『ラウダート・シ』発刊5周年を記念して2020年に教皇庁が発行した『ともに暮らす家を大切にする旅』の翻訳が完成見込みであると伝えた。

主な審議事項▼『司教、司祭、助祭の叙階式』と『献堂式』儀式書について、典礼委員会が『ミサの式次第（2022新版）』に準じた修正を施し、司教協議会として教皇庁典礼秘跡省に提出すること、また「諸聖人の連願」を口語化することを承認した▼「日本二十六聖人殉教者の祝日」「日本宣教の保護者 聖フランシスコ・ザビエルの祝日」「日本の信徒発見の聖母の祝日」の3つの祝日と、「福者ユスト高山右近」など4つの記念日が主日・祭日と重なる場合、その日に近い週日で、他の祝日や記念日と重複しない適当な日に移動する措置を、日本カトリック司教協議会として教皇庁典礼秘跡省に申請することを承認した▼2022年度カトリック中央協議会収支決算書を承認した。

長崎大司教区主催 講演会

永井隆博士が私たちに遺してくださったもの

日時 2023年5月14日（日）
14時～（90分予定）
場所 カトリック浦上教会 聖堂
講師 山内清海師（長崎教区司祭）
入場無料。どなたでも参加可。

現在、カトリック信徒運動の共同体が、永井隆と緑夫妻の列福列聖調査に関し、長崎教区の承認のもと、最初の予備調査を進めようとしています。私たち教区においても、この講演会を通して、永井博士が私たちに遺してくださったもの、世界平和の大切さについて考えましょう。

レデンプトール幼稚園が閉園

惜しまれつつ 64年の歴史に幕

レデンプトール幼稚園（長崎市愛宕）が、今年3月末をもって閉園した。

同園は1959年カナダから来日したレデンプトール会の司祭によって設立され、以来、多くの園児たちを育て送り出してきた。閉園に至った主な理由は、少子化の影響により園児が減少していることや、建物の老朽化だという。

卒園生や各方面の関係者から閉園を惜しむ声が聞かれる中、3月31日（金）お別れのセレモニーが行われ、64年の歴史に幕を下ろした。

新年度の予算など承認

2022年度 第4回教区顧問会

2022年度第4回教区顧問会が3月20日（月）大司教館で開催された。

主な審議事項は以下の通り。まず、23年度の年間運用計画と収支予算書が審議され承認された。加えて、「奨学金基金特別会計規程」「事務実践の手引き」「不動産管理の手引き」の改定がそれぞれ承認された。また、「子どもと女性の人権相談室」の責任司祭として葛嶋秀信師が推薦された。他に、新型コロナウイルス感染症に関し、3月13日以降の長崎教区の対応が確認された。続いて、旧伝道師学校活用のための事業化計画について今後検討していくことが承認された。

主な報告事項は、「※調停司祭」に岩崎康彦師と大水文隆師が任命されたこと。「旅」の終わり150周年記念行事の報告。さらに、23年度の教区司祭黙想会の日程と講師などが報告された。最後に、今年の人事異動によって23年度から4人の顧問が入れ替わることになり、長年の奉仕に大司教からのねぎらいの言葉をもって顧問会を終えた。

※「調停司祭」とは、「司祭評議会規約」に定められている役割。

2020年
〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

3月に開催

ベトナムの青年大会 長崎教区青年黙想会

少年自然の家で

3月25日（土）と26日（日）、雲仙市の千々石少年自然の家で「ベトナムの青年大会 in 長崎」が開催され、参加者とスタッフら合わせて約70人が参加した。「共に住む」をテーマにしたこの大会は長崎教区人権委員会がサポートする形で企画され、司祭や修道女、スタッフらの協力のもと、長崎で初めて実施された。

1日目の夕方、各地から集まった青年たちはゆるしの秘跡を受け、夕食後に、聖体礼拝、大会開始式。それから、グループで話し合いと出し物の準備をし、お祈り、就寝。

2日目のプログラムも屋外の予定だったが、天候の状況を見て体育館で実施。朝9時に中村倫明大司教が訪れ、青年たちは歓迎の歌を披露し、大司教の誕生日（3月21日）祝いのケーキカットを行った。大司教は青年たちに向け次のように話した。「日本に、そして長崎に来てくれてありがとうございます。私はイタリアで過ごしたことがあるので、皆さんの大変さが分かります。カトリック国のイタリアでも差別のような扱いを受けたことがあります。日本でもないわけではないでしょう。イタリアで過ごすことができたのは友達がいるからです。だから、皆さんもぜひ友達を作ってください。ベトナム人の友達だけではなく、日本人と友達になってください」

また、皆でテーマソングのダンスを踊ったり、ゲームを楽しんだり、司祭の講話を聴き、それを受けてグループでの分かち合いと発表を行ったりした。昼食後、ミサをし、解散した。

大会に参加した青年たちの中には未洗者の方々もいて、「教会のことを少し知ることができた」「もともと教会のことはあまりいいと思っていなかった。今回カトリックの文化を知るようになった。これから教会に行きたいと思う」「大会で友達が増えた。ありがとうございました」「皆が共に過ごし、考え、食事をすることができてうれしかった」「皆さんの明るさ、楽しさを見せてもらった」などの感想があった。

長崎大司教館で

3月12日（日）、長崎教区青少年委員会主催の「教区青年の黙想会」が大司教館で行われた。

今回の黙想会は、オプス・ディの木村昌平師（写真）の指導により、「身近な聖性、聖なる者を目指して」というテーマで講話が行われた。新型コロナ感染症対策の緩和の発表も聞かれ、大司教館には青年23人（浦上5、大崎6、滑石5、長与2、時津1、天神1、愛宕1、城山1、三浦町1）と修道女2人が集まり、主催者によると「例年よりも多くの青年たちが集まることができた」という。また、昨年と同様に平戸、上五島、下五島の各地区からも4人の青年たちがリモートで参加した。

最後の派遣ミサの中で木村師は、「この機に若者たちの交流が広がり、召命にもつながるよう願う」と話し、参加者皆は祝福をいただいて解散した。

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL（095）844-4011
24時間営業　FAX（095）843-9896

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人　平田クリニック
院長　ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・通所リハビリテーション

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売
たつみ産業株式会社
西田商事株式会社
代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社　〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL（0956）31－8268

HCR
あなたの心に 元気と幸せを！
悩み解決のお手伝いをします。
障害者虐待防止・従業員のストレス対処法・職場の人間関係向上・うつ病予防などの研修も承ります。
原口カウンセリングルーム
ヨハネ 原口 芳博
（公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士）
福岡カトリック神学院非常勤講師
元福岡女学院大学人間関係学部学部長
長崎県西彼杵郡長与町まなび野2-11-2
☎ 090-6639-6848
E-mail: haraguchicr@hcr2017.org
営業:月曜日～土曜日 10:00～19:00【完全予約制】
詳しくはホームページをご覧ください。

証し人として生きるよう

聖香油ミサ・司祭の日

4月4日（火）10時30分から浦上教会で聖香油ミサが行われ、中村倫明大司教の主司式、髙見三明名誉大司教と80人を超える司祭団の共同司式のもと、約200人の信者らが祈りをささげた。

中村大司教はミサの説教の初めに、この日が誕生日の2人の司祭にお祝いの歌を歌い、それから、「司祭の日」である今日はすべての司祭にとって祝いの日であり、中でも司祭叙階の節目を迎えた司祭らに特別のお祝いを伝えたいと話した。また、この1年間に亡くなった4人の司祭をしのび、その1人、堤 好治師と親交があった観音寺のご住職からの手紙を紹介。手紙には、清貧に生きた堤師の呼子教会赴任中の暮らしぶりやさまざまな働きが綴られ、大司教は手紙に対する感謝と、このような司祭が兄弟であったことを誇りに思う旨を語った。大司教は一方で、司祭に向けた批判の手紙を受け取ることもある、と説教の場を借りてお詫びを述べた。そして、キリストと同じ使命、人々の救いのために司祭が「油を注がれた者」であると触れ、「私たち司祭が救いのみ言葉の忠実な働き手、証し人として生きることができるようお祈りください」と呼びかけた。

説教に続いて、司祭の約束の更新、病者のための油と洗礼志願者のための油の祝福、聖香油となる油の聖別があった。ミサの最後に、司祭叙階の節目を迎えた司祭らの祝賀式と、新たに長崎教区に移籍された司祭と今春引退される司祭らの紹介があり、聖堂内は温かい拍手に包まれた。

みことばにふれて 200

シスター 中島 典子

（長崎教区信仰教育委員会、お告げのマリア修道会）

「わたしにつながっていなさい」（ヨハネ15・4）

あぁ、なつかしい！ 書棚から古冊子が出てきました。教区で発行された小学低学年の要理テキストでした。テキストを開くと「はじめに」続いて「わたしはぶどうの木で、あなたたちは、枝です。枝は幹から離れると枯れてしまいますが、幹につながっていれば、美味しいぶどうを実らせることができます。あなたたちも、わたしと一緒にいれば、その通りになります。…わたしたちも神様の恵みをいただくと、たくさん善い行いができるようになります。恵みとは、人間をかわいがってくださる神様のいのちのことです。神様のいのちをいただければ、わたしたちは神様に似てきて、とても幸せになれるのです。…すばらしい恵みをわたしたちにくださった神様は、どのようなお方でしょう。その神様のことを、教えてくださった方はどなたでしょう。神様のよい子どもになるには、どうしたらよいでしょう」と書いてありました。

今年の教会学校目標は「わたしにつながっていなさい」（ヨハネ15・4）。「わたし」って誰？ 今も子どもたちの声が聞こえてくるようです。教えてくれる人がいないなら今も分からないままかもしれません。けれども、神様のあわれみによって今の信仰生活があること、イエスさまにつながっていることは、小さい頃に要理を教えてくれた神父様やカテキスタ、両親や家族から手渡されてきたものです。そう考えると有難い気持ちになります。

今年は『旅』の終わり150年記念の年。浦上の信徒が流配先から帰還し無一物からの生活にあって、礎となる信仰を手渡すために子や孫たちに語り継いだ「旅の話」は浦上に限らず五島や平戸各地でもさまざまな形で信仰が伝えられてきたからこそ、恵みの今日があるのだと思います。

そして今、私たちに手渡された信仰はふるいにかけられ、新たな試練の時代を迎えています。それでもイエスさまは「わたしにつながっていなさい」と、今新たな「証しの旅」につくように私たちを招かれます。

聖母月、新緑豊かな季節に日本の信徒発見の聖母の取り次ぎによって福音を生きる恵みを願い、「旅する教会の神秘」の黙想を続けたいと思います。

神学生・志願生 召命の歩み お祈りします

今春、長崎教区内にある神学校・志願院に入学した人は1人。中学1年生の深堀颯太（そうた）さん（三浦町教会出身）が長崎カトリック神学院に入った。

また、イエスのカリタス修道女会（本部・東京）の志願生として、中学1年生の冨永芽依（めい）さん（時津教会出身）が宮崎県にある志願院に入った。

写真は4月9日（日）長崎カトリック神学院で行われた入学式の日の1枚。中村倫明大司教、神学院の養成担当司祭と在校生、関係者が新入生を温かく迎えた。今後の召命の歩みを祈りたい。

みつあみの会主催 一日の祈りの集い

開催日と場所（教会名）

・5月5日㈮本河内
・7月2日㈰福江
・9月2日㈯城山
・11月3日㈮田平
・2024年1月25日㈭三浦町

ご希望の方は、開催日の1週間前までに①郵送②ファックス③メールのいずれかで左記へお申し込みください。定員15人。参加費500円。

申し込み先
（担当）純心聖母会
Sr. 山田房恵
〒852-8142
長崎市三ツ山町 415
FAX 095-843-7570
norasho@outlook.jp

ぶどう園

▼NHKワールドのサイトに「眠りから覚めた最後の審判―修復の全貌」掲載中　大浦天主堂キリシタン博物館が収蔵するド・ロ版画についての海外向け番組。2024年3月28日まで次のURLで視聴できる。https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2015295/

▼第143回クルシリヨ　5月3日㈬～6日㈯、お告げのマリア修道会本部。問合先・荒木明美。TEL070-2379-3022

▼教区生涯養成委員会主催の聖書講座（オンライン受講可）　5月6日開始、第1・第3土曜10時30分～11時30分。全10回、10回分の受講料5千円、聴講1回千円。

※小教区への案内をご確認ください。

こちらも確認できます→

▼長崎教区主催の講演会「永井隆博士が私たちに遺してくださったもの」　5月14日㈰14時、浦上教会。講師・山内清海師（長崎教区司祭）。入場無料。どなたでも参加可。

▼雲仙殉教祭　5月21日㈰、雲仙メモリアルホール。13時開会、13時30分ミサ、15時巡礼。

▼長崎教区主催『旅』の終わり150周年記念　5月28日㈰12時45分からロザリオ行列（西坂～浦上教会）、15時から浦上教会で記念ミサ。

感謝

―寄付―

●長崎大司教区
●匿名様（出津）

―香典返し―

●長崎大司教区
●深堀暁美様（浦上）
故ヨゼフ深堀哲也様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

クリスマス募金 支援報告

教区評議会は、自然災害による被災者、国内外の生活困窮者への支援を目的として、昨年12月1日から今年1月15日にかけて「クリスマス愛の募金」の協力を呼びかけた。募金は468万7769円（1月20日現在）集まり、同評議会は前年度の繰越金192万2698円と合わせて次の活動団体に送金した。

▼長崎ホームレスを支援する会 50万円▼長崎ダルク 50万円▼福岡美野島司牧センター 50万円▼東京山友会 50万円▼大阪旅路の里（釜ヶ崎）50万円▼ドリームカムホーム青少年自立援助 50万円▼生活困窮者への支援として教区福音化推進部へ 20万円▼佐世保隣人愛の会 10万円▼声の奉仕会・マリア文庫 10万円▼長崎カトリック聴覚障害者の会（長崎と佐世保）各10万円▼聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会 10万円▼モナの会 10万円▼大村外国人を支援する会 10万円▼一粒の麦の会 10万円▼外国人のための医療相談会 10万円▼コンゴ平和学園 50万円▼カリタスジャパン 200万円（国内援助と海外援助のため各100万円）。

また、1月21日以降に寄せられた募金は次年度に繰り越される。

アグネス 今村キエ子修道女

（お告げのマリア修道会）

2月28日逝去。88歳。1934年平戸市生まれ。57年当時の南田平修道院（現在の田平修道院）に入会。60年初誓願、65年終生誓願宣立。入会後は、農耕、精米、保育園の給食担当を田平修道院で行った。46歳で転任し、奥浦、佐世保、神学院、大山で、保育園、司祭館の調理に携わった。

7年ほど前にがんを患い、手術後は修道院と老人施設を行き来しながら、共同体のために笑顔で奉仕した。快活でユーモアのある修道者だった。

葬儀ミサ・告別式は3月2日、田平教会で行われた。

カタリナ 川口フミノ修道女

（お告げのマリア修道会）

3月26日逝去。85歳。1937年新上五島町生まれ。52年青砂ヶ浦修道院に入会。60年初誓願、71年終生誓願。上・下五島、北松の修道院、保育園で院長、園長の責任を終えた後、本部、佐世保などで庶務、カテキスタを担当。大司教館で12年間、引退司祭に奉仕した。その後大病を患ったが、炊事の手伝いや庭の草花の手入れを行って共同体に奉仕した。昨年末、がんの告知を受けた後は、忍耐強く病苦を忍び、祈りのうちに感謝の手紙をしたためるなど、奉献生活の最期を準備した。

葬儀ミサ・告別式は3月28日、十字修道院聖堂で行われた。

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
ながさきせきちょう
長崎石彫
ヨゼフ　岩永　貴弘
☎(095)862-2469
長崎市花園町 23-17 立岩公園前

マイホームの美容と健康に！
（有）山川塗装
有限責任中間法人　全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役　ペトロ　山川　進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330　FAX(0956)49-8729

CALIS Catholic Life Service
カリス通信 5月号
「カトリック信徒傷害見舞金制度」のご紹介
カリスでは、教会の皆様を対象に「カトリック信徒傷害見舞金制度」をご案内しております。教会には、信徒の皆様は勿論、一般の施設利用者、訪問者など多くの方たちが訪れます。本制度は、教会の福音宣教活動を支援するため、教会施設内で生じた事故により、ケガをした教会施設利用者（当該教会の神父・助祭、有給の教会事務職員、清掃・修繕業者等を除く）への見舞金等をお支払いする制度です。
<保険金のお支払い事例>
・廊下の段差につまずいて転倒し、大腿骨を骨折した。
・階段でバランスを崩して踊り場に転落し、手足を打撲した。
・扉のガラスに気づかずに衝突し、頭部を打撲した。
・駐車場を掃除中に、手首をスズメバチに刺された。
<見舞金の対象となる教会施設内で行う行事の例>
・ミサ・典礼：ミサ、洗礼式、堅信式、結婚式、叙階式、復活祭 等
・例会：黙想会、聖書研究会、祈りの会 等
・行事・催事：バザー、祝賀会、歓送迎会、研修会、クリスマス会、七五三、成人式、セミナー、ボーイ&ガールスカウト活動等
<お支払いする見舞金の種類>
①被災者対応費用　②被災者傷害見舞費用および傷害見舞費用
小教区単位でご加入いただきます。現在、約500の教会が加入されています。本制度は毎年6月1日補償開始（中途加入も可能）です。5月に全ての教会に制度のご案内をお送りしております。
※本ご案内は「レジャー・サービス施設費用保険」についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、パンフレットおよび各保険の「重要事項説明書」をよくお読みください。

私たちが、お守りします。
三條貴英　毛利玲子　山本泰彦
服部秀昭　川口 薫神父（顧問）
カトリック共済システム 有限会社カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索
2023年5月作成 22TC-103197
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください